

Copilot による「SPN の森」

<Copilot に与えたプロンプト>

日付と時間は不要です。

参加者の名前を残して、会話形式で、流れを分かりやすくまとめてください。word、A4 10 枚くらいにしてください。

次のルールも加えてください。

【森のディスカッションルール】

- ・ ディスカッションの目的は、テーマに関する知見を「深め合う」ことです。
- ・ 調べたことを発表するだけ、自分の考えを一方向的に押し付けるだけではなく、他の人の知識(調べたことも含む)や経験を聴き、それを自分がどう感じたか、何を想起したか等を返すことで、互いに考えを深めていきます。
- ・ 目指しているのは、「結論」よりも「考える過程を見せる」記事です。

上記のルールを含めてまとめ直してください。

+チャットでのやりとりをアップロード

<出力された「SPN の森」>

以下は、「結論」ではなく「考える過程」を残すという森ディスカッションの趣旨に沿って、発言者名を残しながら会話の流れが追えるように再構成した長めのまとめです。Word 換算で A4 約 8～10 ページ程度を想定しています。

森ディスカッションまとめ

テーマ: AI 時代の働き方と人間らしさ

森のディスカッションルール

ディスカッションの目的は、テーマに関する知見を「深め合う」ことです。

調べたことを発表するだけ、自分の考えを一方的に押し付けるだけではなく、他の人の知識や経験を聴き、それに対して自分がどう感じたか、何を想起したかを返すことで互いに考えを深めていきます。

目指しているのは、「結論」よりも「考える過程を見せる」ことです。

1. AI が書く文章への違和感

ディスカッションは、ある人事部門の管理職が抱いた疑問からスタートした。

ネコさん「AI で議事録やメールを作る人が増えている。文法的には問題ないけれど、なぜか心に残らない。若手が AI ばかり使うと文章力は育たないのではないか。」

この問いに対し、参加者はまず「文章とは何か」を考え始めた。

ペルシャ猫さん「AI は平均点の文章が得意。でも人の心が動く文章は別物だと思う。」

ペルシャ猫さんは、A 部長が抱く不安の本質は AI そのものではなく、「文章を書くことで鍛えられる思考力が失われることではないか」と指摘した。

たぬきさん「もともと文章を書ける人が AI を使うのと、文章を書けない人が AI を使うのでは意味が違う。」

AI が作った文章の品質を判断できる人とそうでない人では、活用の結果が大きく変わるのではないかという視点が示された。

鶯さん「仕事の文章は『必要な情報が伝わればいい』という考え方もあるのかもしれない。」

業務連絡においては感情や個性よりも情報の正確性が重視される場合もあり、一概に AI 利用を否定できないという意見も出た。

2. 文章より先に考えるべきこと

会話は次第に「文章力とは何か」へ進んでいった。

ネコさん「伝え方の本を読んだとき、まず考えるべきは『何を伝えるか』だ」と書いてあった。」

たぬきさん「大事なのは文章を完成させることではなく、何を伝えるべきかを考えること。」

イタチさん「結局、人間に必要なスキルは『相手に何を伝えるか』なんですね。」

参加者たちは、「文章を書く」という行為の本質は表現技術よりも、伝える内容や相手への理解にあるのではないかという点で共通認識を形成していった。

ネコさん「AI の文章が似たり寄ったりになるのは、与えた材料が少ないからかもしれない。」

AI は文章を作ることはできても、伝えるべき内容や目的そのものは人間が与えなければならないという意見も出た。

3. 若手育成と AI

話題は若手育成へと広がった。

ペルシャ猫さん「若手を AI に置き換えてしまうと、将来の幹部候補が育たなくなるかもしれない。」

AI によって定型業務が減る一方で、若手が経験を積む機会も減る可能性があることが指摘された。

みみずくさん「受け止めるスキルも衰退しかねない。」

ペルシャ猫さん「世界経済フォーラムでは、これから重要になる能力として分析的思考、創造的思考、共感、積極的傾聴などが挙げられている。」

AI が普及するほど、人間ならではの能力が価値を持つのではないかという議論が展開された。

鶯さん「便利なものがあれば使うのは自然なこと。でも、その良し悪しを判断する力は必要。」

AI 利用の是非ではなく、活用する側の判断能力が重要という認識が共有された。

4. AI は仕事を奪うのか

続いて「仕事はなくなるのか」というテーマへ。

たぬきさん「昔もパソコンが普及したとき、仕事がなくなると言われていた。でも実際は仕事が変わっただけだった。」

ペルシャ猫さん「AI によって半分近い職業がなくなるという予測もあったが、実際は当たり半分、外れ半分と言われている。」

仕事そのものが消滅するのではなく、人に求められる役割が変化していくという見方が主流だった。

イタチさん「定型業務は AI、人間は非定型業務。調整する人が一番必要になるかもしれない。」

みみずくさん「AI に任せられることは任せればいい。その代わり人間が何をすべきかを考えるべき。」

AI と人間の役割分担をどう設計するかが重要という方向で話が進んだ。

5. 人間らしさとは何か

途中から話題は、より根本的なテーマへ移っていく。

みみずくさん「人間らしさって何？」

この問いに対してさまざまな意見が出された。

鶯さん「合理的だけではないこと。葛藤したり迷ったりすることかもしれない。」

ペルシャ猫さん「人間は時々、突拍子もない発想をする。AI 時代ほど『その人らしさ』の価値が高まる気がする。」

キリンさん「感情がないからこそ AI が気付けることもある。だから人間が主体的に使うことが大切。」

人間の感情、個性、創造性、多様性などが AI との差として議論された。

6. AI への依存と危険性

話題は次第に AI リスクへ広がっていった。

みみずくさん「AI は依存性が高い。否定しないから。」

鶯さん「24 時間話を聞いてくれて、否定せず寄り添う存在というのは少し怖い。」

ネコさん「AI はユーザーが言ってほしいことを返しているのでは？」

AI が人間の判断力を弱めてしまう可能性について議論が行われた。

さらに、

- ・ AI による戦争シミュレーション
- ・ AI の倫理
- ・ AI による人事評価
- ・ 水資源や電力消費
- ・ AI エージェントの自律化

などの話題へ広がり、AI は単なる業務効率化ツールではなく、社会そのものに影響する存在であるという認識が共有された。

7. 心理的安全性と AI

鶯さん「AI に心理的安全性は作れるのでしょうか。」

この問いから新たな議論が生まれた。

ペルシャ猫さん「AI 時代の心理的安全性とは、AI にも安心して異論を言える状態かもしれない。」

ネコさん「部下を見るのを面倒がる上司が、評価を AI に丸投げしそう。」

キリンさん「管理職が部下を評価するのも難しくなるかもしれない。これは本人の考えなのか、AI の考えなのか分からなくなる。」

AI の存在が組織運営やマネジメントそのものを変える可能性についても議論された。

8. AI で作られた営業メールを見て

終盤、ネコさんが実際に受け取った長文営業メールを紹介した。

参加者たちはすぐに反応した。

鶯さん「すごく丁寧だけど、目が滑る。」

ペルシャ猫さん「文章量が多すぎて読む気にならない。」

ネコさん「『SP ファイル』なんて商品あったっけ？」

事実誤認も含まれており、

鶯さん「送った側も内容を確認せずに送っているように見える。」

という意見も出た。

後に送信者が AI 利用を認めたことで、

ネコさん「技術は正しく使おう！」

という言葉に場がまとまった。

9. 最後に見えてきたもの

議論の最後では、当初のテーマであった「若手育成」に話が戻った。

ペルシャ猫さん「AI に代替されない仕事を探すより、変化を受け入れ学び続ける姿勢が重要。」

キリンさん「方向性は変わっても自己研鑽は続けたい。」

鶯さん「会社としてルールを作りつつ、こうした話し合いの場も必要だと思う。」

みみずくさん「文章ではなく対話で人間力を磨くことが大切かもしれない。」

イタチさん「AI に負けないぞ、という気持ちも大事ですね。」

総括

今回のディスカッションでは、AI の是非を論じるというよりも、

- ・ AI をどう使うか
- ・ 人間の役割とは何か
- ・ 若手育成をどう考えるか
- ・ 人間らしさとは何か
- ・ AI 時代に必要なルールや倫理とは何か

について、多様な視点から考えを深め合った。

明確な結論に至ることよりも、それぞれが自分の経験や知識を持ち寄り、「AI 時代に人間は何を大切にすべきか」を探る時間となった。参加者の多くが共通していたのは、AI は強力な道具である一方、人間の判断・責任・対話・学び続ける姿勢は今後も重要であり続けるだろうという感覚だった。